

令和3年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特8	学校名	県立水戸高等特別支援学校										学校長名	村山 亮								
教頭名	齋藤 正												事務長名	川上 義治								
教職員数	教諭	46	寄宿舎 指導員	20	養護 教諭等	3	栄養 教諭	1	常勤 講師	7	非常勤 講師	1	実習 教諭	1	実習 助手	1	事務 職員	2	技術 職員等	13	計	95
生徒数	学部	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計		合計クラス数						
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							
	高等部 (産業科)	38	10	33	15	36	12	/	/	/	/	/	/	/	107	37	18					

2 目指す学校像

<p>○ 就労を目指し、自己実現のできる学校</p> <p>○ 挑戦し続け、成長の喜びと感動のある学校</p> <p>○ 地域や企業と共に、よりよい社会創りに貢献できる学校</p> <p><R3 スローガン></p> <p>『 Be ambitious! (大志を抱け) 』</p> <p>KOUTOKU スタンダード</p> <p>『 Keep on Smiling 』 & 『 Be a (role) Model 』 & 『 Only one in Japan 』</p> <p>(笑顔で行こう) (お手本になろう) (日本でただひとつ)</p>
--

3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習・研究	<p>新学習指導要領を踏まえた授業づくり推進のため、全教科、領域において、生徒が主体性をもって取り組むための工夫や対話を通じた深い学びの指導について授業研究を実施している。(令和2年度授業研究18授業実施)</p> <p>新聞を活用したNIEの取り組みでは、各教科、学年等の活動に積極的に新聞を取り入れて授業を実施した。(R2年度全国新聞コンクールでは優秀学校賞受賞)</p> <p>「専門教科」については、全てのコースにおいて直接及び間接的に校外での販売や清掃などの地域貢献活動に取り組んでいる。(令和2年度マルシェ2回、地域貢献活動実施) また、卒業後、自立し働き続ける力を身に付けるため、重点指導事項(基本的な力・主体的に働く態度・自分を知る力)を柱に授業を実践している。</p> <p>各種検定に取り組み、職業自立に向けて各種資格取得のための基礎的知識・技能の習得を図っている。</p>	<p>卒業後を見据え「思考力・判断力・表現力」の伸長を図る授業づくりを行い、特に教科ごとに「見方、考え方」を働かせる授業づくりに焦点をあて、新学習指導要領に応じた目標と評価の一体化をさらに図る必要がある。</p> <p>タブレット端末、電子黒板等の職員研修を取り入れ、ICT機器の使用方法や、授業への効果的な活用方法を身に付け、各教科において実践していく必要がある。</p> <p>自立し働き続けるための力を身に付けるため、重点指導事項を柱に、さらに職業教育の実践に取り組んでいく必要がある。</p>
就労指導	<p>生徒一人一人の、社会的・職業的自立を目指し、将来的な自立と社会参加に向けた就労指導の充実に取り組んでいる。</p> <p>卒業生47名(令和2年度)のうち46名が一般就労し、1名は一般就労を目指して就労移行支援の障害福祉サービスを利用している。卒業生の就労先への定着に向け、定期的に就労状況を確認したり、必要に応じて関係機関と情報共有したりするなど連携を図りながら支援している。</p>	<p>常に生徒の適性を踏まえた職域や実習先、就労先の開拓が必要である。また、実習後の評価を基に振り返りを行い、学校生活全般に生かしていくことが必要である。</p> <p>卒業後の継続的就労に向け、事業所、支援センター、保護者と連携を図り、卒業生の直面している課題を早急に共有し、職場や生活上の課題を速やかに解決していく必要がある。</p>
生徒指導	<p>「学校生活のきまり」を生徒・保護者に一部ずつ配付し、家庭と情報共有をしながら規範意識の向上にむけた取り組みを実践している。</p> <p>各家庭で作成したスマホ家庭のルールを長期休業時に確認し、インターネットやSNS等についての安全な利用について家庭との連携を図っている。</p> <p>「ハートバランスシート」を活用して生徒の精神的なコンディションの変化を捉え、昼食後のミーティングで生徒情報を共有している。</p>	<p>インターネットの安全な利用や、情報機器を媒介とした人間関係について、ルールやマナーを守り、適切に対応できるようさらに指導を継続する必要がある。</p> <p>生徒自身で気持ちの浮き沈みやその原因、対応を考えていけるようにする必要がある。そのため、昨年度から取り組んでいる「ハートバランスシート」をさらに活用する取り組みが必要である。</p>
総合支援	<p>トーキングタイムを学年ごとに計画し、定期的実施している。希望者によるあおぞらトーキングや校内支援連絡会の定期的な開催(月1回)や、学校医参加による支援会議(年3回)、関係機関との支援会議等を行い校内支援の充実に努めている。</p> <p>巡回相談では、ケース会議への参加や研修会の協力等を行いながら、特別支援教育についての理解に努めている。</p> <p>本校進学希望者を対象に、学校見学を毎週木曜日に設定し、特別支援教育のセンター的機能の充実と本校の理解啓発を図っている。</p>	<p>困っている生徒の思いを聴き取り、必要に応じて早めに外部機関との連携を進め、支援体制を整えていく必要がある。</p> <p>特別支援教育のセンター的機能の充実や巡回相談員の専門性の向上を図るために研修の機会が必要である。</p> <p>学校見学等を通して本校の様子を伝えたり、ホームページを活用したりしながら継続的に理解啓発を進めていく必要がある。</p>
保健指導	<p>定期健康診断の結果、受診が必要な生徒について、受診率が低い傾向にあり、生徒用通知の工夫や保健指導係と担任と連携して個別指導等を継続的に行っている。</p> <p>年2回学校保健・食育委員会を開催し、学校医・保護者と連携を図ることで、学校保健活動の理解啓発に努めている。また、保健給食委員会生徒による調べ学習や委員会活動の報告等の発表を行っている。</p> <p>生徒および職員による校内外の清掃活動を計画・実施し、整理・整頓・清潔・清掃の徹底に努めている。</p>	<p>熱中症や感染症の予防、バランスの良い献立づくり等、委員会活動において調べ学習を取り入れるなど、主体的に健康管理をする力を育てる必要がある。</p> <p>学校保健・食育委員会と生徒保健・給食委員会の連携や充実に継続的に図る必要がある。</p> <p>校内救急体制について、役割を明確にするためシミュレーションを行い、確認する必要がある。</p>
危機管理	<p>職員へ防災マニュアルを配付し、災害時の対応について、役割を明確化している。</p> <p>学校及び寄宿舎において、様々な災害(火災・地震・津波・竜巻・引き渡し訓練)を想定した防災訓練を見直し、改善を図りながら実施している。(年間10回)</p>	<p>防災訓練を行う明確な理由を提示することで、生徒が主体的に危険を予測し「自分の身は自分で守る」行動につながるよう、防災教育の充実を図る必要がある。</p> <p>コロナ過での防災訓練の進め方や、本校の防災訓練のあり方について、市防災担当や地域の自主防災組織と連携し、より良い方法がないか検証していく必要がある。</p>

4 中期的目標

1 安全・安心・元気で活力ある学校づくりの推進を図る。	【安全・安心・元気】
2 将来の社会生活・職業生活を見据えた体系的な教育の推進を図る。	【自立】
3 社会に開かれた魅力ある教育の推進と本校教育の理解啓発を図る。	【挑戦】
4 豊かな人間性を育て、よりよい社会の創り手を育てる教育の推進を図る。	【貢献】

5 本年度の重点目標

重点項目 (学校組織目標)	重点目標
1 安全・安心・元気で活力ある学校づくりの推進を図る。【安全・安心・元気】	① 安心して学習や生活ができる教育環境の整備 ② 一人一人に応じた生徒指導と健康管理 ③ 教職員の働き方改革の推進とチーム力向上
2 将来の社会生活・職業生活を見据えた体系的な教育の推進を図る。【自立】	④ 卒業後の視点を踏まえたカリキュラムマネジメントの推進 ⑤ 新学習指導要領を踏まえた授業づくりの推進 ⑥ 寄宿舎における自己管理能力の向上
3 社会に開かれた魅力ある教育の推進と本校教育の理解啓発を図る。【挑戦】	⑦ 生徒主体の持続可能な学校行事への取組 ⑧ 本校教育の理解啓発と本校志願者数の向上 ⑨ 企業との連携強化による進路指導の充実
4 豊かな人間性を育て、よりよい社会の創り手を育てる教育の推進を図る。【貢献】	⑩ 相手を思いやる豊かな心の育成 ⑪ キャリア形成の促進 ⑫ ボランティア活動、スポーツ・文化芸術活動の推進